

# 『今月の天候と農作業』

通巻第5686号

4月号

令和6年3月28日発行

宮崎県

宮崎地方気象台



## 【特に注意を要する事項】

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

## 【予報のポイント】

向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。

低気圧や前線などの影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

## 【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	10	20	70
降水量	九州南部	20	30	50
日照時間	九州南部	50	30	20

## 【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は、高い確率70%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

### <1 週目の予報> 3月30日(土)～ 4月5日(金)

期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日もありますが、その後は低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、曇りや雨となるでしょう。

### <2 週目の予報> 4月6日(土)～ 4月12日(金)

天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

### <3 週目から 4 週目の予報> 4月13日(土)～ 4月26日(金)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報

(<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>)を参照してください。

## 普通作物

### 早期水稲

---

#### 1 田植え後の水管理

活着までは茎葉からの蒸散を抑えるために深水で管理し、その後は、水温上昇のために浅水で管理します。なお、晩霜の予報が出された場合は保温のために深水管理とします。

#### 2 病虫害対策

田植え前までに、いもち病の対策として箱施薬を行いましょう。補植用の余り苗は、いもち病の発生源となるため早めに処分します。スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生を確認したら、浅水管理や薬剤での防除を行いましょう。

#### 3 除草対策

除草剤（初中期一発剤）は必ずラベルの記載内容を確認し、ヒエの葉齢を見ながら散布遅れがないようにしまししょう。処理後7日間は掛け流しをせず止水します。また、ジャンボ剤はしっかり拡散するよう処理時に5cm以上の水深を確保しまししょう。田植同時処理では、薬害対策として、田面の均平や植付深度、田植え後の土の戻りを確認し、田植え後は速やかに入水します。

初中期一発剤の散布遅れや水管理不足等で雑草が残ってしまった場合には、速やかに中後期除草剤を処理しまししょう。

### 麦類

---

赤かび病防除のため、小麦では穂揃期（開花期）に、二条大麦では穂揃期から7～10日後（葯殻抽出期）に1回目の、さらに、その7日後に2回目の薬剤防除を行いましょう。

（福川 泰陽）

## 施設野菜

### きゅうり

---

日中の気温の上昇や日射量の増加により蒸散量が増加するため、かん水量を増やします。葉に強い直射光が当たると、葉焼けや萎れが発生するため、日中はカーテン等を利用して日射量を調節します。また、湿度が低下すると曲がり果や尻細果等の発生が多くなるため、ハウス内が乾燥している場合には、通路散水などで湿度を確保しまししょう。

### ピーマン

---

茎葉が繁茂してくると、光線量の透過不足等による白果や収穫遅れによる赤果の発生、また、成り疲れ等によるうどんこ病の発生が多くなるため、光線量を遮っている茎葉の整枝・せん定や適期収穫を徹底しまししょう。また、土壌水分が不足すると草勢が著しく低下するため、こまめなかん水・追肥を行い、草勢を維持しまししょう。

### トマト

---

ミニトマトは気温の上昇に伴い裂果が多くなるため、収穫時の着色度合いを調整します。また、果実の結露を防ぐため、日中の換気を徹底し、収穫遅れがないよう適期収穫に努めます。

## いちご

---

日中の気温の上昇や日射量の増加により、果実温度が上がることで、果実傷みによる事故が多くなります。収穫時の果実温度に注意し、収穫後の冷蔵を行います。

また、次作の育苗を開始する時期です。健全な親株を確保するために、炭疽病の簡易検定を行い、病気感染の疑いのある苗は早期に除去・処分するなど、万全の対策を実施します。

(吉山 健二)

## 葉茎根菜類・いも類

### 全般

---

今月上旬から、しょうがやマルチ栽培のかんしょ及びさといもの植付けや各種夏野菜のは種適期です。土壌が乾燥した状態でマルチ被覆を行うと萌芽不良や生育障害、品質低下につながるため、適当な土壌水分(手で握って団子になる程度)の時に畝立てとマルチ張りを行います。

### さといも

---

早生種のマルチ栽培は萌芽時期です。萌芽後はマルチに穴を開けて芽出しを行います。

また、疫病の伝染を防ぐため、種芋採取後の残さは放置せず、速やかに耕耘し、細かく破碎し分解させます。

### 食用かんしょ

---

普通掘栽培の植付け時期です。苗は灌水を徐々に減らし、外気に徐々にさらして順化させます。上旬は遅霜や平均気温の低下により植付け後の活着が悪くなるため、天候を見ながら植付けましょう。

採苗は植付け3～5日前の午後に、地際から5cm以上離れた位置で行い、採苗後は薬剤で苗全体を消毒します。調整後の薬剤は日光や汚れなどで分解しやすいため、1日を目安に使用します。苗は温湿度を保ちながら数日保管すると発根が良くなります。

### スイートコーン

---

大型・小型トンネル栽培は、4月上～中旬の雄穂抽出期が追肥の時期です。雄穂が出始めたら窒素成分で10aあたり5～6kgを追肥します。雄穂抽出から10日～2週間後に雌穂(絹糸)が抽出し果実が肥大します。トンネル内の高温による葉焼け等を防止するため、ビニールの開閉管理や除去には十分注意します。株元からの分けつは、光合成による養分確保ができるため、除去せずにそのまま残します。

(川崎 佳栄)

## 果樹

### 1 常緑果樹

---

#### かんきつ全般

今年の発芽や開花は平年よりも数日早くなると予想されています。花の充実不足に伴う生理落果を防ぐために、発芽期から開花期にかけて窒素主体の葉面散布を数回行います。今年は裏年傾向の園地が多いことが予想されます。着花が少ない園地は、着果確保のためにも着花状況を確認しながら、か

ぶり枝や新梢の除去を行いましょう。

### 完熟きんかん

剪定が終わっていない園は、必ず4月上旬までに剪定を実施します。たつぷりのかん水、春肥の施用、完熟堆肥等の有機物の投入によって樹勢回復を図ります。

発芽揃いを良くするために、ハウス内の蒸し込みを行うとともに、新梢の充実を図るために、窒素主体の葉面散布を数回行います。

### マンゴー

早期作型の本格的な収穫時期です。収穫が近づくにつれて果皮が弱くなり、果皮の結露が原因と考えられる「あざ果」や「やに果」が増加してきます。対策として、ハウス内の急激な温度上昇を防ぎ、早朝の換気やヒートポンプによる除湿によって結露を防止します。また、次第に日射が強くなり、日焼け果が発生することがあります。カーテンや遮光ネットを利用し、日焼けを防止しましょう。

## 2 落葉果樹

---

### かき

摘蕾は生理落果後の摘果に比べて、樹体養分の確保や翌年の花芽分化に有効です。開花始め頃から二分咲までの間に実施します。1結果枝当たり1花残すことを原則とし、長い結果枝には2～3花とします。

(黒木 宏憲)

## 花き

### 電照ギク

---

曇雨天の日が続くと、ハウス内の湿度が高まり、白さび病が発生しやすくなるため、定期的に防除を行います。

年末以降に出荷する作型の親株育成の時期です。作型や穂冷蔵の有無等の条件を考慮し、計画的に作業を進めます。

### 夏秋ギク

---

5、6月出荷作型の「フローラル優香」では、低温により貫生花が発生しやすくなるため、4月中は10℃、消灯後3週間程度は16℃の夜温を確保します。

また、「精の一世」の7月以前の出荷作型では、低温により幼若性を獲得する恐れがあるため、消灯前は13℃程度、消灯後は18℃程度の夜温を確保します。

### スイートピー

---

受粉から子実の肥大期です。

つる下げにより草勢を弱めたり、採種率の低い品種は株を揺らすなどして着莢を促します。

また、充実した大きな種子を得るために、定期的にかん水や施肥を行います。

### ホオズキ

---

7月出荷作型は4月中～下旬、8月出荷作型は4月下旬～5月上旬にはマルハナバチを導入して着果促進を図ります。

日中のハウス内温度が15℃を下回ると、花粉の発芽不良やマルハナバチの活動停滞により着果不

良になりやすいため、保温に努めます。

## シキミ

---

春芽の萌芽時期です。

定期的な防除を実施し、黒しみ斑点病やサビダ二類の発生を抑えましょう。

## ラナンキュラス

---

球根養成期です。養成株は蕾をできるだけ早めに摘除し、徐々にかん水頻度を減らすことで、球根の肥大を促します。

(山塚 裕美)

# 畜産

## 家畜防疫対策

---

2024年3月12日現在、全国9県において10例の高病原性鳥インフルエンザが発生しています。野鳥が営巣地に帰る時期までは農場への侵入リスクが高い状況が続きます。

農場を守るために、畜舎内外の消毒はもとより、人・車両・物資の消毒と野生動物等の侵入防止対策を徹底し、農場にウイルスを侵入させないよう飼養衛生管理基準に基づく侵入防止対策を徹底しましょう。

## 家畜

---

今月は外気温の日較差が大きくなるため、家畜や家禽の免疫力が低下し、呼吸器病等の感染症が発生しやすい時期となります。気温が上がる日中は畜舎カーテンを開け、換気扇やファンにより換気を十分に行いましょう。また、乾燥している場合は埃や塵が舞いやすくなるため、呼吸器病対策のために、細霧器等を使用して湿度を適度に保ち、畜舎内が乾燥しすぎないように留意しましょう。

病気の発生時は早期に対処できるよう、家畜の健康状態の確認を徹底しましょう。

## 飼料作物

---

今月は、早播きのトウモロコシやソルガムの播種時期です。作付けする前に土壌分析を行い、適切な肥培管理を行いましょう。

イタリアンライグラスの収穫も本格化します。収穫適期は、ほ場全体の4～6割が出穂した時です。遅れないよう適期収穫を行いましょう。

(藤井 真理)

# 特用作物

## 茶

---

### 1 防霜対策

一番茶の生育に合わせ、防霜ファンの状況(設定温度、首振り角度、回転方向)やスプリンクラーヘッドの詰まり等を確認し、誤作動により霜害が発生しないよう注意します。

### 2 芽出し肥の施肥と防除

芽出し肥は、硫安等の速効性肥料を摘採の25日前までに施用します。

気温の上昇に伴いカンザワハダニやツマグロアオカスミカメ、コミカンアブラムシ等の発生が多くなるため、定期的に発生状況を確認し、地域の防除暦に準じて丁寧に薬剤散布しましょう。

### 3 一番茶の摘採及び製造

高品質な荒茶を製造するために、茶工場の処理能力や一番茶の生育状況・降雨等を考慮し、「摘み遅れ」とならないよう摘採計画を立て適期摘採に努めます。

また、事前に摘採機の刃研ぎや製茶機の点検・清掃・試運転等を行いましょ。

摘採時は摘採袋への生葉の詰め過ぎを避け、摘採後は速やかに（30分以内）茶工場へ持ち込み、欠陥の無い荒茶製造に努めましょ。荒茶への異物混入防止対策も徹底しましょ。

（竹田 博文）

---

## しいたけ

### 1 選別

乾しいたけは、用途に応じて取引されるので、商品価値を高めて販売するためにも、規格表を参考に選別しましょ。特に、次の点に注意しましょ。

異物（ほだ木の樹皮、虫、金属類等）は絶対入れない。

乾燥不良、虫害、カビ、黒子など規格外品は絶対に混ぜない。

3cm以下を他のサイズに混ぜない。

バレと縁に巻きがあるものとは別々にする。

できるだけ種菌、採取時期、日和子、雨子別に行う。

丸形と変形とは区別する。

湿度の低い晴天時（雨天時は避ける）を選んで行う。

### 2 箱詰め

箱詰めは、最初からたくさん入れずに、まず2分入れて揺すり込み、さらに4分、6分、8分と入れ、最後に11分ほど入れて丹念に揺すり込みましょ。箱詰めがゆるいと、輸送途中で欠け葉を生じ、商品価値の低下を招く恐れがありますので注意が必要で。

（堀川 和也）

---

## たばこ

今月は、土寄・ほ地内環境整備と、収穫・乾燥に向けた準備が主な作業となります。

### 1 土寄の注意点

土寄は、植付け30日～40日経過して、作柄に応じて実施しましょ。時期が早すぎると幹が柔らかく傷つきやすいため、腰折病等の病害発生の原因となります。また、遅すぎると肥料吸収が遅れ、作柄が晩作化しましょ。

不定根の発達を促進し本葉系を充実させるために、株元までしっかり土寄を実施しましょ。

植穴の固結や畦内土壌の固いほ地の対応として、土壌をほぐしながら穴埋めすることが大切です。特にローラー土寄を行なった際には、土が寄せられているか再確認し、株元までしっかりと手直し土寄を行いましょ。

## 2 排水溝の設置

ほ地内に水が溜まると、根が傷みやすくなり生育不良や病害発生の原因となります。必ずほ地周囲や枕地に、ほ地の形状に合わせて排水溝を設置するようにしましょう。

## 3 マルチ片混入防止

異物混入防止のため、植付け穴のちぎれそうなマルチや、ほ地内に落ちているマルチ片を回収しましょう。

## 4 収穫乾燥の事前準備

収穫・乾燥へ向けて作業場・貯蔵庫の清掃、使用物品の点検更新、及び乾燥機の点検・空焚きを実施しましょう。

## 5 農薬の適正使用とドリフト対策

農薬を使用する際には「たばこ用農薬の使用基準」【2024年作版】を遵守し、他作物へのドリフト（農薬飛散）が無いよう注意しましょう。また、使用後には「農薬使用実績票」等に必ず記帳しましょう。

（宮崎県たばこ耕作組合）

## 農作業安全

---

忙しくなり、作業に追われると農作業事故発生リスクが高まります。このため余裕を持った農作業を心がけましょう。

## 内容の詳細について

---

4月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県総合農業試験場及び森林経営課、宮崎県たばこ耕作組合が担当しています。各作物の病虫害の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

（<http://nougyoukishou.pref.miyazaki.lg.jp>）

## 向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稲	いもち病		置き苗は、いもち病の発生源や伝染源となるため早めに処分します。箱施薬をしていないほ場で、イネミズゾウムシの発生が目立ち始めたら粒剤の水面施用を行います。 スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺あるいは粒剤を水面施用します。
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ		
野菜・工芸作物	アブラムシ類	並	各種植物ウイルス病を媒介するため、早期発見・防除に努めます。
冬春きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病	並 やや多 やや少 並	気温の上昇に伴い各種病害の発生に好適な条件となるため、気象の変化には細心の注意を払い、施設内の温湿度管理を徹底します。いずれの病害も多発してからは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。
	黄化えそ病 (MYSV)	やや少	
	ミミキハザミ タバココナジラミ	やや少 並	
冬春ピーマン	うどんこ病 斑点病 黒枯病	並 やや多 並	いずれの病害も多発してからは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。被害茎葉等は伝染源となるため、整枝後の残渣等はすみやかに持ち出し処分します。 アザミウマ類、コナジラミ類は、気温の上昇とともに増殖しやすくなるため、発生初期に防除を行います。ヒラズハナアザミウマは主に花に生息するため、着花の少ない時期の丁寧な防除が効果的です。
	ミミキハザミ ヒラズハナアザミ タバココナジラミ	やや少 並 やや多	
冬春トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 うどんこ病	やや多 並 並 並	灰色かび病の発生が多くなっています。ハウス内の換気に努め、湿度が高くないように管理します。 タバココナジラミの発生が多くなっています。気温の上昇に伴い活動・増殖が活発になります。トマト黄化葉巻ウイルス、トマト退緑ウイルス(トマト黄化病)の媒介虫であることから、発見したら早めに防除し、密度低下に努めます。
	タバココナジラミ	やや多	
冬春いちご	うどんこ病 灰色かび病	並 やや多	オンシツコナジラミの発生が多くなっています。気温の上昇に伴い、発生が増加するので、発見したら早めに防除します。 ヒラズハナアザミウマの発生が多くなっています。本虫は寄生花率10%以上で被害果が発生する恐れがあります。低密度時に防除を徹底します。また、青色粘着板を設置し、誘殺による継続的な密度低下を図ります。
	ハダニ類 オシツコナジラミ ヒラズハナアザミ	やや少 並 並	
サツマイモ	基腐病		育苗床に発生を確認した場合は、種イモごと速やかに処分します。採苗当日に苗消毒を行います。消毒液は必ず当日に調整した物を使用します。
カンキツ	そうか病 かいよう病		罹病した枝葉は春葉への伝染源となるため徹底的に除去します。また、春葉での感染が多いと開花後果実への感染を抑えることは難しいので、発芽初期から展葉期の防除が重要になります。 ミカンハダニの発生が多くなっています。要防除水準は、葉当たり寄生虫数0.5~1頭(寄生葉率30%)であり、冬期防除が実施できなかった場合は、発生状況に応じて薬剤散布を行います。
	ミカンハダニ	多	
茶	カンザワハダニ	並	一番茶萌芽期以降発生が多い場合には、農薬使用基準の摘採前日数等に注意して防除します。

- 1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。  
2) 宮崎県病害虫防除・肥料検査センターホームページはQRコードから閲覧してください。

